

清流通信「四万十川物語」

第36章 (H12.3.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

満5歳を迎えた四万十川対策室

～21世紀戦略づくりへ再スタート～

「四万十川物語」読者の皆様、こんにちは。

今、四万十川は菜の花が満開。水辺には柳がそよ風にゆれています。毎年繰り返される春の訪れ。この穏やかな情景がいつまでも続きますように…！

さて話は変わりますが、「四万十川対策室」は、今年4月で満5歳を迎えます。誕生以来、「四万十川を守りながら、地域住民にとって、高知県民にとって、また全国の方々にとって最もいい方向とは？」を模索してまいりました。

その結果、保全のための土台づくりはほぼ完成（四万十川条例づくりが残っていますが…）し、2000年度からは、土台のうえに立って、自然や清流を活かした地域づくり戦略を立てる新たなステップへ移ってまいります。その具体的戦略の1つが「四万十まるごと博物館整備構想」です。（現在、予算要求中）

読者の皆様は、「四万十川のどこに行ったらいいのかわからない。」と感じたことはありませんか？

現在流域では、屋形船、トンボ公園の他にも、四万十ウルトラマラソン、四万十りんりんサイクルが企画実践され、今年は四万十川の景観にマッチした「沈下艦」の「歩行者天国（月1回、車の乗り入れを制限する）」も試みます。

しかし、全てが『点』のままとなっています。「四万十まるごと博物館」は、これらを『点から線』へとつなげていこうとするものです。具体的には、流域の自然、清流、歴史、文化、人、山・川の幸等々の資源を発掘し、道の駅などの情報拠点や「自然の案内人」登録などを進め、21世紀の新しい観光戦略を立案します。『保全をベースとした活用。活用するためには保全』。これら両者のバランスがとれた時、四万十川は人々の目の中、心の中にいつまでも焼きつけられることでしょう！



●情報拠点施設整備例(西土佐村カヌー館)

ふるさと絵はがき「清流 四万十」発売

四万十川流域の風景を題材にした、ふるさと絵葉書「清流四万十」が、平成12年3月8日に四国内の郵便局で一斉発売されました。販売価格は、7枚1セットで350円です。絵柄は四万十川流域7町村の代表的な風景で、中村市在住の画家、野村ナナミさんが描いたものです。通信販売も扱っておりますので、四国外にお住まいの方もぜひご購入ください。

ふるさと絵葉書についてのお問い合わせは、

四国郵政局郵務部営業課 原嶋さん TEL 089-936-5205 まで

次章(4月10日発信)は、『(財)四万十川財団が本格始動』を予定